

VII

社会連携・ 社会貢献

推進分野の背景と方向性

近年、大学の使命である教育と研究の展開の上に、第三の使命である社会連携（社会貢献）の必要性が問われている。大学は教育研究機関としての役割だけでなく、社会の要請に応え、社会と協働することが求められており、長い歴史と伝統の中で蓄積された知的・人的・物的な資産を地域社会に還元することの重要性が増してきている。

本学では、教育・研究成果の社会還元だけでなく、キャンパスが保持する資源及び蓄積されたスポーツの力を最大限に活用し、産官学の連携や卒業生ネットワークの拡充、地域コミュニティの形成を進め、社会課題の解決に挑む。地域社会の課題解決を皮切りに、全国・世界レベルの価値創出を実現していく。



推進事項 1

社会連携による 新たな「価値」の創造 (学生・教職員×地域社会)

本学が持つ知的資源・資産（教育・研究）を軸とした産官学連携を推進することで、新たな価値（教育的価値、研究的価値、社会的・経済的価値）を創造し、地域社会の抱える課題解決の一役を担う。具体的には、各学部のゼミ等による産官学連携を通じたPBL（Project Based Learning）授業や課外活動団体に所属する学生が行う地域福祉活動、地域住民の参加型イベントの開催等で、時代に沿った教育的価値を創造する。また、本学の研究力をもって地域課題にチャレンジすることで新たな研究的価値を生み出し、社会の発展に寄与する。

主な施策

- 1 社会連携を加速させる推進体制の構築
- 2 社会連携活性化のための充実した支援制度の設計
- 3 学生参加型「域学連携」の推進
- 4 知的資源・資産を活用した産官学連携の推進

推進事項 2

中京大学を核とした 共学・共創コミュニティの形成 (キャンパス・卒業生×地域社会)

「地域に開かれた大学」を目指し、本学が持つ人的、物的及び知的資源の地域社会への還元を契機としたコミュニティの形成を目指す。具体的には、総合大学ならではの学際的な視点に立った生涯学習の場を設計することで、共に学びながら成長できるコミュニティを創造する。また、コロナ禍で人との繋がりが希薄となった現代に、社会で活躍する卒業生と在学生の連携を促すことで、学園の持つ社会的ネットワークを拡充し、中京アイデンティティの醸成を図る。

主な施策

- 1 魅力ある卒業生コミュニティへの再編と活性化促進
- 2 地域発信型の生涯学習プログラムの提供
- 3 地域社会に開かれたキャンパスづくり（キャンパスに集える仕組みづくり）

推進事項 3

大学スポーツを軸とした 地域社会の活性化 (スポーツ×地域社会)

建学の精神の根幹にある「スポーツ」を軸に地域社会の活性化を図る。具体的には、豊田キャンパスで開催するスポーツスクールや子どもスポーツフェスタを継続しつつ、名古屋キャンパスへの拡大を視野に入れる。また、地域課題である小中学校の部活動地域移行やアジア競技大会の開催に伴う運営補助など、名古屋市や豊田市で本学の学生及び教職員が活躍する場を広げながら地域社会の発展に寄与することで、地域から応援される大学を目指し、全国的にもモデルケースに発展させる。

主な施策

- 1 スポーツを通じた社会貢献活動の推進と組織の法人化
- 2 授業、部活動等に関する小中学校との連携体制の構築
- 3 地域市民へのスポーツ分野における教育・研究成果の還元
- 4 応援文化の醸成を目的とした両キャンパスのスポーツ施設充実